

企画課

地方創生に向け意欲を語る 小泉進次郎内閣府政務官が庄原市を訪問

小泉進次郎内閣府大臣政務官が9月21日、庄原市を訪問し、政府が進める「まち・ひと・しごと創生本部」の取り組みの一環として、本市の取り組み状況の聞き取りや現地視察を行いました。小泉政務官は、多くの地域の方の歓声に迎えられ東城支所に到着。市から「木質ペレット利用促進」「木の駅プロジェクト」「移住・定住施策」「子育て支援策」について説明し、意見を交わしました。その後、東城地域で試行されている「木の駅プロジェクト」や総領町の和田芳治さんの「エコストープ」の取り組みなどを視察しました。



木の駅で池田博行さん(右)から説明を受ける小泉政務官



和田さん(右)からエコストープの説明を受ける小泉政務官

地方創生の鍵は「人」であると改めて認識した。自分たちのまちは自分たちの手でつくるんだと必死に取り組んでいる皆さんをどうやって後押しできるのか。ここに着目した支援に力を入れていきたいという思いを強くした」と語っていました。

社会福祉課

不戦を誓い、恒久平和を願う 庄原市戦没者追悼式・平和祈念式典

戦没者に哀悼の意を表し、恒久平和を祈念する「庄原市戦没者追悼式ならびに平和祈念式典」を8月20日、庄原市民会館で行いました。遺族をはじめ、来賓、一般の方、児童生徒など約600人が参列し、本市出身の戦没者2923人の冥福と平和を祈りました。

式典の式辞で木山耕三市長は「戦没者の皆さまの尊い犠牲と遺族の方々の不断の努力によってもたらされた今の平和な暮らしを続けていくために、戦争のもたらした痛み・苦しみ・悲しみの体験を風化させることなく次の世代に語り継いでいきたい」と恒久平和への思いを述べました。

続いて、参列者全員で黙祷、献花を行い、戦没者の冥福を祈りました。

追悼吟詩、市内小学校児童の合唱、口和本の会による朗読、庄原実業高校吹奏楽部による演奏も行われ、改めて平和の大切さを心に刻みました。



庄原実業高校吹奏楽部による演奏

商工観光課

魅力ある料理・特産品づくりを推進 逸品づくり事業個別指導がスタート!

食材の宝庫を生かした観光地域づくりとして取り組みを進めている「庄原市の逸品づくり事業」の個別指導がスタートしました。この個別指導は、開発支援者として決定した個人・団体（料理の部14、特産品の部32）を対象に進められます。

8月26日に市役所本庁舎で行われた料理の個別指導では、フードアナリストの平山友美さんが、開発支援者から出されたアイデアを基に素材の見直しや盛り付け、情報発信の方法などを具体的に指導。9月10日・12日には実際に現地を訪れ、店舗の雰囲気などにマッチした料理を検討しました。

8月20～22日、9月17～19日には市役所本庁舎、東城・高野支所で特産品の個別指導が行われ、「道の駅たかの」のアドバイザーでもある碓孝洋さんが、開発支援者から持ち寄られた産品を基に、見せ方の工夫や内容量の見直し、パッケージの提案などを行いました。今後さらに魅力ある料理や特産品の開発が期待されます。



特産品開発指導(東城会場)